

[成果情報名] 豊産性ニホンナシ新品種「福水」

[要約] 「筑水」の実生より選抜された「福水」は、9月上中旬に収穫できる赤ナシで、果実が大きく、玉揃いが良く、収量が多い。また、みつ症等生理障害の発生も見られない。

[キーワード] ニホンナシ、新品種、福水、みつ症

[担当] 三重科技セ・農業研究部・園芸グループ

[連絡先] 電話0598-42-6358、電子メールwadak02@pref.mie.jp

[区分] 関東東海北陸農業・果樹

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

「福水」(2001年11月品種登録)は三重県津市の藤井崇明氏が「筑水」の実生から選抜育成した品種であり、育成地(三重県久居市)において9月上中旬に成熟する赤ナシである。「幸水」の後に収穫できる品種として「豊水」が栽培されているが、年によりみつ症が多発し、問題となっている。そこで、「豊水」に替わりうる品種かどうかについて、「福水」の果実品質や収量性および交配親和性を検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 収穫期は9月上中旬で、「豊水」と同時期である(表1)。果形は円形で、果皮色は赤褐色である。
2. 「豊水」と比較すると、果肉硬度はやや硬いが、糖度およびpHは同程度である。(表2)。
3. 果実肥大は着果数を平方m当たり14.8果としても良好で、玉揃いも良好である(図1)。10a当たり収量は5.8tと豊産性である(表2)。
4. みつ症の発生は育成者ほ場と農業研究部ほ場、及び県下5カ所の地域適応性試験実施園において、全く見られない(表2)。
5. 腋花芽着生は多く(表2)、短果枝の維持も容易である。
6. 交配親和性は、「豊水」や「長十郎」とは高いが、「幸水」とは低い(図2)。
7. 黒斑病には抵抗性で、黒星病に対しては慣行防除で対応できる。

[成果の活用面・留意点]

1. 「幸水」の後に収穫できる品種として利用できる。
2. 「豊水」のみつ症が問題となっている地域で利用できる。

[具体的データ]

表1 開花盛期と収穫期 (2001年)

品種名	開花盛期	収穫期
福水	4/10	8/31 ~ 9/10
豊水	4/10	9/3 ~ 9/10
幸水	4/13	8/6 ~ 8/24

表2 果実品質及び収量等z

品種名	果重 (g)	果色y	糖度 (%)	pH	硬度	換算収量x (t/10a)	みつ症発生果率 (%)	腋花芽着生率w (%)
福水	467	4.2	12.7	4.65	5.4	5.8	0	61
豊水	398	3.8	12.3	4.61	4.4	-	3	68

z: 果実品質は育成者ほ場のデータ (1996 ~ 2000年の平均値)
 換算収量 (2002年) とみつ症発生果率 (2001年) は農業研究部ほ場のデータ
 y: ニホンナシ(地色) 用カラーチャート
 x: 平方m当たり14.8果の着果量、樹冠占有率80%で計算 (2002年)
 w: 県下5カ所の地域適応性試験実施園の平均値 (2001年)

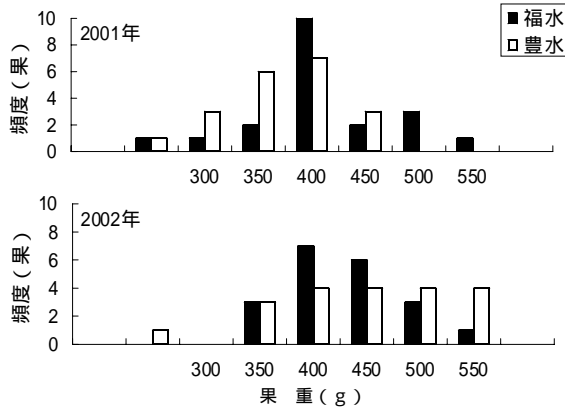


図1 「福水」と「豊水」の果重の分布

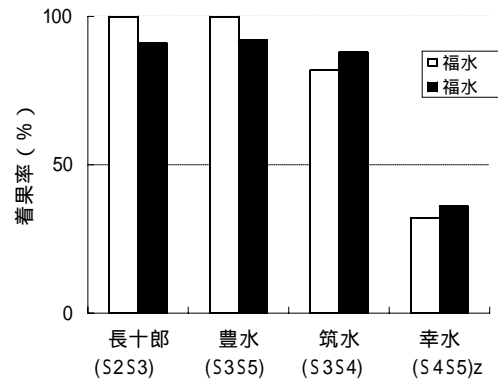


図2 「福水」の交配親和性 (2000年)
 z: カッコ内はS因子型

[その他]

研究課題名: 新品種の選定および地域特産物の高品質技術開発
 (落葉果樹の新系統・新品種の開発)

予算区分: 県単

研究期間: 1996 ~ 2005年度

研究担当者: 輪田健二、前川哲男、伊藤寿、西川豊、森本亨、市ノ木山浩道

発表論文等: Characteristics of a New Japanese Pear Cultivar, 'Fukusui',
 Acta Hort. 587, ISHS 2002, 293-297